

巻頭言 地域資料委員会の活動を振り返って	1
特集：神図協 この1年の動き	
研修委員会	2
大学図書館協力委員会、広報委員会	3
連載：わたしのイチオシ 綾瀬市立図書館 「コミュニケーションロボット」	4

## 地域資料委員会の活動を振り返って

地域資料委員会委員長 (大和市立図書館)

来嶋 芙実

平成30年度に神奈川県図書館協会は90周年を迎えました。その記念事業として、地域に残る映像資料のデジタル化を実施しました。これは貴重な映像記録をデジタル化することで永く保存できるとともに、DVDという媒体にすることで、加盟館に配布し、利用されることで広く県民の皆様に見て、知っていただく機会にしたいという趣旨です。加盟館におかれましては、すでにお手元にお届きのことと存じますので、ご活用いただければ幸いです。

さて、『かながわ街角今昔物語』『かながわあの日あの頃』と題し、デジタル化した映像は図書館総合展で開催されたフォーラムで上映されました。参加者から自然と沸き起こった「知っている」「懐かしい」という声に、映像の持つ力を改めて感じました。映像は場の雰囲気や人物の空気感も伝えられるので、分かりやすく伝えるという力が大きく、誰にでも理解しやすいという特徴があります。また記憶に残りやすく、かつ記憶を喚起しやすいため、よりダイレクトに訴えかけることができるように思います。

デジタル化した映像は、ニュース映画と言われ、時事的な話題などの情報伝達及び解説を内容とす

る記録映画の一種で、映画館でも上映されていたそうです。そこに映し出されているのは当時を生きる市民の姿です。公的な資料だけでなく、こういった市民の記録も大切な地域資料と言えます。今回こういった記録をデジタル化したことで、価値が見直され、後世に残していくべき地域資料という認識が生まれればと願っています。地域資料委員会の意義は、未来に向けて地域資料を蓄積していく、保存していくことの重要性を発信していくことにあると改めて認識する機会となりました。

最後に、この巻頭言が掲載される頃には、地域資料委員会委員長の任期を無事に終えているはずですが、本来業務のほかに委員長を務めるのはなかなか大変でしたが、委員会は館種や立場を超えた方々と一緒に意見を交わしながら作り上げていく貴重な経験であり、また交流と人脈の場でもあったと思います。拝命してから2年の任期を全うすることができたのは、活気ある意見を出してくれた地域資料委員会のメンバーと、いつもサポートくださる事務局のおかげと感謝申し上げます。

## 研修委員会

研修委員会では、次のとおり研修会を開催しました。

詳しい報告はホームページをご覧ください。

(<http://www.kanagawa-la.jp/>)

回数	研修テーマ・講師（敬称略）	開催日
第1回	「県立川崎図書館」（施設見学）	6/26
第2回	「国立国会図書館東京本館」（施設見学）	7/20
第3回	第20回図書館総合展フォーラム（神図協90周年記念事業）「あのころの映像が地域を映し出す～映像をとおして時代を継承するために～」 コーディネーター：春木良且氏（フェリス女学院大学教授） パネラー：田村正志氏（公益財団法人はまぎん産業文化振興財団）、吉田基晴氏（株式会社あわえ）、白石智彦（神奈川県立図書館）	11/1
第4回	「スウェーデンの公共図書館と民主主義」 講師：オーレ・ベリー氏（日比谷図書館文化館）	11/28
第5回	子ども読書活動推進フォーラム「絵本は愛の体験です～お話の生きている世界とは？～」 講師：松居友氏（児童文学者／ミンダナオ・子ども図書館主催） 事例発表：横浜市立駒岡小学校 実演（自作紙芝居） ：いぬくら子ども文庫	12/8

回数	研修テーマ・講師（敬称略）	開催日
第6回	「相模女子大学附属図書館」（施設見学）	12/19
第7回	「司書課程・図書館・地域社会との連携について」 講師：宮原志津子氏（相模女子大学准教授）	12/19
第8回	「国立映画アーカイブ本館」（施設見学）	1/18
第9回	「だれにでもやさしく読める図書館利用案内を作る」 講師：野口武悟氏（専修大学教授） 松尾孝行氏（欧文印刷株式会社）	1/31
第10回	「あなたの知らない図書館サービスと法の関係～著作権・肖像権をめぐって」 講師：福井健策氏（弁護士）	2/13
第11回	「ビブリオバトルを体験してみよう」 講師：市川紀子氏（ビブリオバトル普及委員会関東地区副代表）	2/19

今年度においては、各研修委員により、企画段階から綿密に検討された研修会を合計11回開催し、合計517名の方々に御参加いただきました。

研修会開催に際し、会場提供や講師派遣など様々な形でご協力くださった皆様方に、改めてお礼を申し上げます。

[ 事務局員 川崎市立中原図書館 黒瀬 輝章 ]

## 大学図書館協力委員会

大学図書館協力委員会は、大学図書館に関する調査・研究と相互協力事業の推進を目的としています。平成 29・30 年度は、調査研究テーマとして「共通閲覧証のあり方」を掲げ、今年度は、7 月、12 月、3 月の全 3 回本委員会を開催しました。特に、テーマとして掲げた、「神奈川県内大学図書館共通閲覧証」制度は、神奈川県内大学図書館相互協力協議会から引き継いだ大学図書館間の相互協力事業ですが、神奈川県図書館協会における事業としてのあり方や利用の促進等について検討し、協議を進めました。その中で、協会ホームページにおける掲載方法及び内容についての見直しを行いました。

そのほかに、本委員会では、協会の関連事項について情報を共有しつつ、各大学図書館における課題や問題等についての情報交換を行ないました。

一方、平成 30 年度は、今後の調査・研究においても重要な課題となる著作権法の改正がありました（平成 31 年 1 月 1 日施行）。この改正は、公布の日（平成 30 年 5 月 25 日）から起算して 3 年を超えない範囲内において施行となる ICT を活用した授業における著作物の利用促進のための改正を含むなど、大学図書館として、所蔵する著作物を教育利用する際の支援のあり方について検討を要するものです。授業に必要な公衆送信については、文化庁長官の指定する単一の「指定管理団体」に補償金を支払うことにより著作権者等の許諾を得ることは必要なくなるとされておりますが、2 月 15 日には、その「指定管理団体」として「一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会」が指定されました。また、TPP11 整備法による著作権法第 51 条～53 条に定める保護期間の著作者の死後 50 年から 70 年への変更は、デジタルアーカイブ構築等に対する影響も大きいと考えられます。

今後とも、こうした大学図書館に関わるさまざまな課題に沿って調査・研究を進めるとともに、相互協力の推進と連携を図って参りたいと考えております。

[委員長 神奈川大学図書館 堀江 美由紀]

## 広報委員会

広報委員会では協会報の発行、ホームページの管理、図書館総合展でのブース展示を行いました。

今年度の活動内容は以下の通りです。

### 1 協会報の発行（年 4 回発行）

年 4 回広報委員会を開催して協会報各号の方針を決め、編集・校正等はメールのやり取りで行い、効率よく発行できるよう心がけました。

○263 号（7 月 1 日発行）

平成 30 年度神奈川県図書館協会総会報告  
わたしのイチオシ YNU 英語多読マラソンシステム（横浜国立大学附属図書館）

○264 号（10 月 1 日発行）

特集：神図協 90 周年「神図協 90 年の歴史を協会報から振り返る」

わたしのイチオシ「開館 30 周年記念事業  
特集展示を考える」（南足柄市立図書館）

○265 号（1 月 1 日発行）

特集：第 20 回図書館総合展フォーラム報告・  
ブース展示報告

わたしのイチオシ「図書館サポーター」活動記（伊勢原市立図書館）

○266 号（4 月 1 日発行）

特集：神図協 この 1 年の動き

わたしのイチオシ「コミュニケーションロボット」（綾瀬市立図書館）

### 2 第 20 回図書館総合展におけるブース展示

今年度は 10 月 29 日（火）から 11 月 1 日（木）まで、パシフィコ横浜で開催されました。神奈川県図書館協会のブース来場者は 3 日間で延べ 547 人でした。

展示ブースでは、協会の紹介や各委員会の概要等をパネルで紹介するとともに、協会刊行物の展示及び購入申込受付を行いました。また今年度は 90 周年事業のひとつとして、加盟館の紹介をプロジェクターで投影しました。ロールペーパー芯で作る本立ての展示及び作り方の配布も好評でした。さらに今年度はアンケートを実施し、アンケート回答者に KLA90 周年ロゴ入り不織布バッグを提供しました。昨年より約 1.5 倍の来場者がありましたので、協会を PR することができました。

[委員長 横須賀市立北図書館 海老沼 隆]

綾瀬市は「さがみロボット産業特区」に加入しています。この周知と、AI やロボットに接する機会を提供することを目的に『コミュニケーションロボット Kibiro (キビロ)』(販売元：株式会社FRONTEO) を導入しました。



会話はもちろん、ターゲティング機能で年齢と性別を認識し、相手に合わせた反応を設定することができます。設定はブラウザソフトから行えますが、話しかけたときに Kibiro がうまく答えてくれないこともあるため、試行錯誤しています。

イベント時や季節の行事の日などに、カウンターに設置し、来館者に、あいさつを中心とした会話の交流を楽しんでもらっています。声をかけてくれるのは主に親子連れの方ですが、子どもより大人のほうが興味津々な様子が意外でした。



Kibiro は小さく、服を着ていることもあり愛着を抱きやすいロボットです。そのため、ほかの服を着せなくなったスタッフが、当館のマスコットキャラクター「ピッキー」の服を作って着せたり、2月3日の節分では鬼のお面を付けたりしました。このコスプレが好評だったので、衣装デザインコンテストを計画中です。また、Kibiro の設定操作をプログラミングの入口として体験してもらえるのではと考え、行事を予定しています。

(綾瀬市立図書館 星野 みぎわ)

